

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：13501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22592368

研究課題名（和文） 臨床看護技術の「技」「美」「快」の探究

研究課題名（英文） The research on characteristics of skillful, aesthetic and comfortable nursing practices in clinical nurses and nursing students

研究代表者

中村 美知子 (NAKAMURA MICHIKO)

山梨大学・医学工学総合研究部・教授

研究者番号：80227941

研究成果の概要（和文）：

臨床看護師が実施する看護行為の技・美・快の特徴を明らかにするために、模擬患者群18名を対象に、看護学生群12名、臨床経験5年未満看護師群20名、10年以上看護師群20名が看護行為を実施し、模擬患者群と評価者群（教員6名）が評価を行った。その結果、看護行為4場面の「技」「美」「快」は10年以上看護師群が有意に高値を示し（ $p < 0.05$ ）、看護行為いずれの場面においても「技」「美」「快」に有意な正相関があった（ $p < 0.01$ ）。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this article is to clarify the relationship between the skillful, the aesthetic and the comfortable of the nursing practice among the clinical nurses and nursing students. As a result, it is significantly high value about all items of "the skillful", "the aesthetic" and "the comfortable" in the veteran clinical nurses than the other groups ($p < 0.05$). There was significantly positive correlation among "the skill", "the aesthetic" and "the comfortable" in the clinical nurse's practices ($p < 0.01$).

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：臨床看護技術，技，美，快

1. 研究開始当初の背景

看護学は古くから“実践の科学”，“看護科学と芸術”といわれ，看護学部・学科の英表記を School of Nursing Art and Science とするところも少なくない。芸術は，特殊な素材・手段・形式により，技巧を駆使して美を創造・表現しようとする活動，およびその作品であり，芸・技芸・技である（広辞苑，1998）。昨今，医療現場では高度医療の進歩，それに伴う医療技術の開発など，国をあげて取り組んでいる。一方で，臨床看護独自の技術，特に患者の生活を充足させる「快」の開発・進歩・発展は十分とはいえず，芸術的観点から論じられる機会は極めて少ない。看護は健康時，健康障害時にかかわらず，対象者の生活上のニーズを充足するための援助であり，看護技術の多くは患者のニーズを充足するための「技」である。「技」「美」「快」の要素を哲学，心理学，社会学，現象学，認知科学の側面からみてみると，「技」とは，ある物事を行うための一定の方法や手段であり（新村，1991），Skillful と表され，熟練した，腕前の巧みさ器用さをさす（小西，2007）。また，「技」の習得は必ずしも段階的ではなく，学習者の能動的な動きによる師の立ち振る舞いの模倣とその繰り返しである。「美」とはうつくしいこと，よいことであり知覚・感覚・情感を刺激して内的感覚を引き起こすものである（新村，1991）。美は Beautiful と表され，物事に対してはみごとですばらしいこととして表わされている（小西，2007）。カントによると，「美」とは普遍的に「快い」ものであるとも言われている（Didier J. 1998）。「快」とは，快いこと，心にかなうことであり（新村，1991），comfortable と表され心地よく，安楽であり苦痛がないこと（小西，2007），欲求の満足と結び付いた情動である（Norbert S. 1999）。「快」が生理的・個人的・偶然的・主観的であるのに対して，「美」は個人的利害関心から解放され，より普遍的・必然的・客観的社会的である（新村，1991）。これらのことから臨床看護師による患者のケアの「技」は，「美」的であることがのぞましく，その「技」を通して患者は「快」を得るものと考えられる。

2. 研究の目的

臨床で実施する看護行為の技・美・快の特徴を，臨床経験 10 年以上群，5 年未満群，看護学生群と比較して明らかにし，臨床経験豊かな看護師による質の高い看護技術の実践，後輩ならびに学生への指導と今後の課題について検討した。

3. 研究の方法

- (1) 対象者：看護学科 1 年生 18 名（模擬患者，以下患者群），看護学科 3-4 年生 12 名（学生群），臨床経験 5 年未満看護師 20 名（以下，5 年未満群），臨床経験 10 年以上看護師 20 名（以下，10 年以上群），教員 6 名（以下，評価者群）。

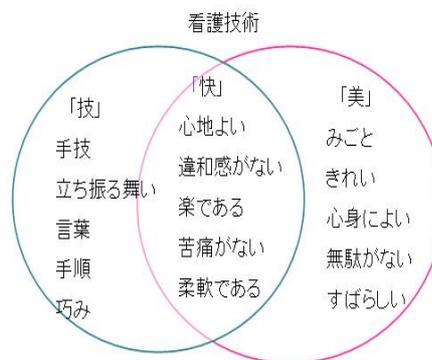


図1 看護技術の技・美・快の要素(調査項目)

- (2) 調査内容 (図 1)：看護技術の要素を「技」「美」「快」とする。①技：立ち振る舞い，言葉，手順，巧み，5 項目。②美：みごと，きれい，心身に良い，無駄がない，すばらしい，5 項目。③快：心地よい，違和感がない，楽である，苦痛がない，柔軟である，5 項目。計 15 項目。各項目の評価基準は「全くそうでない」～「全くそうだ」1 点～6 点の 6 段階評価であり，点数が高い方が評価が高い

- (3) 調査方法：移動（ベッドから車いすへの移乗），ベッドメイキング（患者が車いす移乗後横シート交換・清掃），洗面（患者がベッド移動後，歯磨き・顔の清拭・整髪・手浴），寝衣交換（臥床患者寝衣交換）の 4 場面である。模擬患者群と評価者群は，1 場面終了毎に評価票（技・美・快調査項目記載）に無記名で評価を実施した。

4. データ分析

- (1) 患者群と教員群の 4 場面毎，3 群の評価結果（技・美・快調査項目）を集計し，3 群間の比較を行った。群間の比較には，Kruskal Wallis 検定後多重比較（ボンフェローニの不等式で修正）を用いた。

(2)「技」「美」「快」の相関関係には Spearman の順位相関係数を用いた。

(3) 統計には統計解析ソフト SPSS(Statistical Package for the Social Sciences) for WINDOWS ver. 17.0J を用いた。

(4) 調査内容の Cronbach α は、模擬患者評価 (技 0.921, 美 0.943, 快 0.944), 教員評価 (技 0.790, 美 0.799, 快 0.866) であった。

4. 研究成果

患者群による看護行為の「技」「美」「快」の評価は、「技」の「言葉がよい」を除く全ての項目で学生群 ($3.9 \leq \text{Mean} \leq 4.6$), 5年未満群 ($4.7 \leq \text{Mean} \leq 5.2$), 10年以上群 ($4.8 \leq \text{Mean} \leq 5.1$) の順で有意に高値となった ($p < 0.05$)。評価者群は、全項目で学生群 ($2.4 \leq \text{Mean} \leq 3.5$), 5年未満群 ($4.0 \leq \text{Mean} \leq 4.7$), 10年以上群 ($4.9 \leq \text{Mean} \leq 5.3$) が有意に高値を示した ($p < 0.01$)。患者群・教員群の評価は、4場面ともに10年以上群が最も高値、次いで5年未満群、学生群の順となった (表1)。

表1 4場面の看護行為の「技・美・快」の評価
- 学生群と看護師群(10年以上群)の比較 -

要素	項目	患者評価			教員評価						
		Me	Mean \pm SD	有意差	Me	Mean \pm SD	有意差				
技	手技がよい	4.0	4.1 \pm 1.2	5.0	5.1 \pm 1.0	*	3.0	3.2 \pm 0.9	5.0	5.2 \pm 0.9	*
	立ち振る舞いがよい	4.0	4.5 \pm 1.1	5.0	5.1 \pm 0.7	*	4.0	3.5 \pm 0.8	6.0	5.3 \pm 1.0	*
	言葉がよい(技に伴う)	5.0	5.0 \pm 0.8	5.0	5.1 \pm 0.9		4.0	3.5 \pm 1.0	5.0	5.1 \pm 1.1	*
	手順がよい(方法)	4.0	4.1 \pm 1.1	5.0	5.0 \pm 1.1	*	3.0	3.2 \pm 0.9	5.5	5.2 \pm 0.9	*
	巧みである(技)	4.0	3.9 \pm 1.1	5.0	5.0 \pm 1.0	*	3.0	2.4 \pm 0.9	5.0	4.9 \pm 1.1	*
美	きれいである	4.0	4.0 \pm 1.1	5.0	5.1 \pm 0.9	*	3.0	3.3 \pm 0.9	5.0	5.1 \pm 1.1	*
	よい(心身に)	4.0	4.3 \pm 1.0	5.0	5.1 \pm 0.9	*	3.0	3.3 \pm 0.8	5.0	5.0 \pm 1.0	*
	みごとである	4.0	3.9 \pm 1.0	5.0	5.0 \pm 1.0	*	2.0	2.4 \pm 0.8	5.0	5.0 \pm 1.1	*
	無駄がない	4.0	3.9 \pm 1.2	5.0	4.8 \pm 1.1	*	3.0	2.7 \pm 1.0	6.0	5.3 \pm 1.0	*
	すばらしい	4.0	4.0 \pm 1.0	5.0	4.8 \pm 1.0	*	3.0	2.6 \pm 0.8	5.0	5.0 \pm 1.1	*
快	心地良い	4.0	4.3 \pm 1.1	6.0	5.0 \pm 0.9	*	3.0	3.1 \pm 0.8	5.0	5.1 \pm 1.1	*
	違和感がない	4.0	4.2 \pm 1.3	5.0	5.1 \pm 0.9	*	3.0	3.0 \pm 0.9	5.5	5.2 \pm 1.1	*
	楽である	4.0	4.4 \pm 1.2	5.0	5.1 \pm 1.0	*	3.0	3.0 \pm 0.8	6.0	5.3 \pm 1.0	*
	苦痛がない	4.5	4.6 \pm 1.1	5.0	5.1 \pm 1.0	*	3.0	3.2 \pm 0.8	6.0	5.3 \pm 1.0	*
	柔軟である(対応)	4.0	4.3 \pm 1.1	5.0	5.1 \pm 0.9	*	3.0	3.1 \pm 1.0	5.5	5.3 \pm 0.9	*

Mann-WhitneyのU検定: * $p < 0.01$

学生群・5年未満群・10年以上群の4場面の看護行為の「技」「美」「快」の関係は、患者評価・教員評価共に、有意な正相関があった ($p < 0.01$) (図1)。

評価者	患者評価				教員評価			
	学生群(n=12)		看護師群(n=20)		学生群(n=12)		看護師群(n=20)	
実施者	r	p	r	p	r	p	r	p
技 VS 美	0.95	**	0.83	**	0.77	**	0.88	**
技 VS 快	0.66	**	0.82	**	0.62	**	0.81	**
美 VS 快	0.72	**	0.87	**	0.75	**	0.83	**

r: Spearmanの順位相関係数 ** $p < 0.01$

図1 看護行為の技・美・快の関係—学生群と看護師群の比較—

本結果は、臨床経験豊かなベテラン看護師が、後輩看護師や看護学生の看護行為実践モデルになることを意味し、今後ベテラン看護師による看護技術教育（講義・演習・実習等）への参画が期待される

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

- ① 長崎ひとみ、西山佐知子、中村美知子、西田頼子、内田一美、古屋洋子、大日向陽子、臨床看護師の看護技術の技・美・快の特徴-看護学生との比較-、山梨大学看護学会誌、査読有、10巻1号、2011、11-16.

〔学会発表〕（計3件）

- ① 長崎ひとみ、西山佐知子、中村美知子、西田頼子、内田一美、古屋洋子、大日向陽子、臨床看護師の看護技術の技・美・快の特徴-快到焦点を当てて-、第31回日本看護科学学会学術集会、高知、2011.12.3.
- ② 西田頼子、中村美知子、古屋洋子、大日向陽子、長崎ひとみ、西山佐知子、鈴木久美子、臨床看護師が行う看護技術の技・美・快の評価-経験年数による比較-、山梨大学看護学会学術集会、山梨、2011.11.12.
- ③ 大日向陽子、中村美知子、西田頼子、内田一美、古屋洋子、長崎ひとみ、西山佐知子、看護学生の看護行為における技・美・快の教育上の課題-看護師の看護行為との比較-、第32回日本看護科学学会学術集会、東京、2012.11.30.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 美知子 (NAKAMURA MICHIKO)
山梨大学・医学工学総合研究部・教授
研究者番号：80227941

(2) 研究分担者

西田 頼子 (NISHIDA YORIKO)

山梨大学・医学工学総合研究部・准教授
研究者番号：50324215

内田一美 (UCHIDA HITOMI)

山梨大学・医学工学総合研究部・准教授
研究者番号：80320365

古屋洋子 (FURUYA YOKO)

山梨大学・医学工学総合研究部・講師
研究者番号：80310514

長崎ひとみ (NAGASAKI HITOMI)

山梨大学・医学工学総合研究部・助教
研究者番号：00436966

大日向陽子 (OHINATA YOKO)

山梨大学・医学工学総合研究部・助教
研究者番号：40570263

西山佐知子 (NISHIYASMA SACHIKO)

山梨大学・医学工学総合研究部・助教
研究者番号：70568279]

(3) 連携研究者

なし